

✓ファイル 4

株式会社フレスタ

商品品出し、バックヤードでの商品仕分けなど、障害者が従事できる業務を切り出し、ほとんどの店舗で1名の障害者を雇用



企業情報

明治20年（1887年）に横川で菓子・煙草小売販売店「ムネカネ」として開業。平成3年（1991年）に社名を「フレスタ」に変更し、現在に至る。お客様の笑顔を原点に、信頼される品質と安心を提供し、食から広がる豊かで快適な「暮らし」の創造提案企業を目指すとともに、最終的には、創造力と先進性をもって、お客様への喜びを作り出すという使命感を持った人間的に素晴らしい人材を育てることを企業の最終目的としています。



PROFILE

- ◆所在地 広島市西区横川町3-2-36
- ◆代表者 代表取締役社長 宗兼 邦生
- ◆電話番号 082-233-1100
- ◆店舗数 53店舗（内市内 29店舗）
- ◆常時雇用労働者数 2,185人
- ◆障害者雇用数 59人

経営企画本部リーダー 渡辺さんにインタビュー

Q. 障害者雇用に対する企業の考え方を教えてください。

現場での作業、力仕事、オフィスワーク、清掃、商品化等、障害者ができる業務はたくさんあると思います。まずは「実習」することで触れ合ってみることが一番の解決方法だと考えています。障害者を雇用する上での留意点は、①障害種を問わない②障害の特性を理解する③一人一人の特性を捉える④仕事の中で能力を開発する⑤全人的な発達を促す⑥社会的な支援を得ることが重要であると考えており、具体的には、障害者を孤立させない、障害者本人の背景を理解する、仕事に責任を持たせる仕組みを作ることではないかと思えます。



渡辺さん

Q. 障害者雇用に取り組んだきっかけは？

もともと身体障害者の方を30人くらい雇用していました。平成21年（2009年）頃から、会社の方針として、障害者雇用に限らずダイバーシティの観点で、女性・高齢者・外国人などから能力のある人を幅広く雇用しようという動きが始まり、それに向けて、可能な業務をマニュアル化し、誰でもできる仕事を増やしていきました。

## Q. 雇用している障害者の仕事は？

各店舗に最低一人は配置し、人件費は、本社で負担しています。職種は、店舗内での在庫管理がほとんどですが、人によって担当している内容は異なります。それぞれの能力に応じて勤務時間・職種も決めています。パソコン入力やシステム開発など（CAD）の業務もあります。雇用している障害者は、知的障害者が最も多いのですが、これは特別支援学校の卒業生がほとんどで、平均年齢も若いですが、また、以前から身体障害者を多く雇用していましたので、勤務年数が長い人も多くいます。近年、時節がら、精神障害者の方の雇用も増えてきています。



## Q. これまでに失敗例はありますか？

採用にあたっては、コミュニケーション能力が必要であること、仕事上でのストレス体験はあることを伝えています。それは、障害があるなしに関わらずです。接客業なので、クレームは必ずありますが、「障害者」ということでのクレームはありませんね。失敗例でいうと、精神障害をお持ちの勤続2年目の方で仕事の能力は高かったんですが、職場に慣れたために自分の意見を主張しすぎて、周りの人との関係がうまくいかず、契約更新しなかったケースがあります。これは、健常者にもあることですが…。その店舗は、フレスタの中でも障害者雇用に理解のある店舗で、本人に対しても支援機関を交えて何度も話し合いを持って、関係改善に向けて尽力していただけない、非常に残念な思いがあります。

## Q. 障害者を雇用するうえで配慮していることはありますか？

業務を始めから決めてかからず、その人の能力に合った仕事をしてもらっています。また、現場の全員がその人と接点を持つようにして、職場環境を良くすることも大切だと思っています。先ほど障害者雇用についての費用は本社持ちにしているとお話ししましたが、店舗の経費（負担感）を減らすことだけでなく、その人を育てて店舗に貢献してもらうことでのプラス効果があると思います。

## Q. 障害者雇用を進めようとしている企業さんに対して何かアドバイスがあれば…

義務感だけでは絶対上手くいかない、まずは、その「人」に会ってみることが大事なのではと思います。また、面接を行う際は、支援者だけと話をせず、本人とも直接話をして、その様子を現場に伝えることも必要です。支援者と話をしただけでは、本人の意思や能力が食い違っていることがよくあるんですよ。入社時にお互いの意思確認をしっかりと行い、できることできないことをきちんと伝えること、支援機関との連携も欠かせないと思います。

## Q. 今後の障害者雇用についてのお考えをお聞かせください

これまでは、既存の環境で、環境整備して雇用を進めてきましたが、これからはグループ会社も交えて雇用の機会を積極的に増やしていけるようにしていきたいと考えています。

## 職場訪問



事務補助



バックヤードでの商品仕分け



商品品出し